



聖アンデレ教会 教会報

さかえ

第 381 号

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698
www.st-andrew-tokyo.com

発行人：牧師 司祭フランシス下条裕章
編集人：ヨハネ柳生義人
セバスティアーン林圭佑

イエスが献げられた日

司祭 フランシス 下条裕章

ルカによる福音書がその冒頭の数章で伝える救い主イエス誕生と成長の物語は、賛歌とあわせて記されています。主の母によるマリアの賛歌、洗礼者ヨハネの父によるザカリヤの賛歌、そして幼子イエスが神殿にささげられた時に記録されたシメオンの賛歌です。どれも朝夕の礼拝で用いられる言葉として、親しみのあるものです。

シメオンという人は神の霊に導かれて、幼子が神殿に献げられるときに立ち会い、女預言者アナとともに、神を賛美し、待望の救い主が現れたことを宣言しました。二人とも幼子から見ると祖父母世代、長老などと呼ばれてもよい高齢の人として描かれ、神の救いへの待望の期間の長さ、また幼子とのコントラストは世代交代、新しい時代の到来を暗示しているような場面構成となっています。

さて、イスラエルでは、すべての初子は、人であれ家畜であれ、聖別して献げられるものと考えられています（出エジプト記一三章参照）。そこで初子が生まれると、それが律法で清いとされる生き物であれば神殿に奉獻されることとなります。また人であれば両親が生まれた子どもを手元に置いて育

てるため、それを「贖う」こととなります。神殿に幼子を連れてゆき、幼子に代わるささげものをして、引き取って来るのです。この初子の奉獻と贖いに関する物語は、聖書に多く登場します。神の人の呼ばれるサムエルの奉獻（サムエル記上第一章以下）などは、その母のハンナの祈りと呼ばれる賛歌とともに印象深い物語です。

イエスが神殿に献げられる物語は、こうした長子の奉獻の出来事と、同じく律法にある産後三十三日を数えた母に求められた清めの儀式とされ、主の降誕にまつわる一連の出来事を締めくくる記録とされています。降誕の出来事が「貧しさ」の彩に包まれているように、この日のイエスのために用意された献げ物も貧しい人のものでした。

しかしそれは、イエスの両親が貧しくても神の律法に忠実であったということを示すだけのものではありません。この世を照らす光として来られたみ子が、神の民の神殿に迎えられ、約束された救いの出来事のはじまりが、とくに貧しく小さくされている人々への共感をもって広く宣言されたということの意味します。また私たちは

ここに登場する人々のあり様と行動と言葉をよく思い巡らす必要があります。なぜならそこに、私たち信仰者の自らの命のあり様、私たちの献げ物の意味、そして神への感謝と賛美の根底にある、真実を受入れて喜びにつなげてゆく信仰者の心がよく示されていると思うからです。

私たちの教会では、この出来事を記念する日を「被献日」と呼んで祝います。そして私たちはこの出来事を通して献げ物の意味を知らされることにもなります。イエスを神殿に連れて行ったマリアとヨセフの心、彼らに気がつき出会ったシメオンとハンナ。人がどんな心と思いをういて献げ物が用意され、どのようにそれが献げられ、どのように用いられ、そしてそれがどのように神さまのみ旨を表すことになるのか。

献げるということを通して、私たちと神さまの間に、また信仰者である私たちがこの交わりの中に保っている大切な絆を、また神とともに世界に向けて働きかける私たち教会の宣教の営みへの新しい取り組みの意欲とヒントを思い巡らしてみましよう。

クリスマスの様子

二〇二三年クリスマス報告

キャサリン鈴木裕美子

二〇二三年十二月二十四日、クリスマス礼拝は四年ぶりに制約が何もないクリスマス礼拝でした。そして日曜日。主日の礼拝、クリスマス礼拝があり長い一日となりました。まず各礼拝の出席者数をお知らせいたします。

●十二月二十四日

七時半聖餐式

参加者 一六名

十時半聖餐式

参加者 九一名

こどもとともにささげる礼拝

参加者 一五〇名

夕の礼拝

参加者 二〇名

聖書朗読とキャロルの礼拝

参加者 一七七名

降誕日第一聖餐式

参加者 四五名

●十二月二十五日

七時半第二聖餐式

参加者 一六名

十時半第三聖餐式

参加者 七〇名

「こどもとともにささげる礼拝」では久々にパジェントをお捧げしました。○歳児の可愛い羊さんから大人の羊飼いまで参加しパレスチナやウクライナの子供たちの平和を祈り練習をし、お捧げしました。礼拝後はボーイスカウト、ガールスカウトともにホールにて祝会を行い、サンタクロースが登場しプレゼントをいただきました。十九時からの「聖書朗読とキャロルの礼拝」は七の日課と聖歌、司式下条司祭、中村執事の

メッセージを頂きました。大人の聖歌隊にこどもの聖歌隊も奉唱に加わりました。二二時の降誕日第一聖餐式が終わるころには本当に寒くて、でも、アンデレの白い単色のイルミネーションは凛とした冬の寒さによく映えると感じた聖夜でした。アドベントクランチのろうそくの灯が増えるにつれクリスマスへの期待が高まり進行状況をスケジュール表と照らし合わせてクリスマス準備をしていきました。礼拝奉仕では、アコライト・パジェントの練習・聖歌隊・礼拝用具お磨き・アイロン掛け、掃除関係は、ホール聖堂のガラス磨き、聖堂外回り掃除、飾付関係は、アドベントクランツ作り、庭のイルミネーション、ツリーの飾付撤収まで。二四日のお茶とケーキの準備など、約一か月かけてクリスマスを迎える準備をいたしました。

コロナ禍前のいつものクリスマス礼拝。出席人数的にはコロナ禍前に戻ってはいませんが、このような時代に多くの方々にご協力をいただきイエス様のご降誕をお祝いできたことを心から深く感謝申し上げます。

久しぶりのパジェント

小学六年 仲江花伶

私は小さいころから教会に来ていて聖劇を演じたことも何回もありました。コロナでしばらくできなかった聖劇が今年やっとできて、すごく楽しみに練習をしていました。聖劇で羊をやっていたころから教会にいるので、時間がたつのは早いなと思っていきます。今年は学校の友達と聖劇が出来たり、見てくれたりしたのですごくいい思い出の聖劇になりました。学校でも六年生として学校で聖劇をしたので、その練習もあり

ながらの教会の聖劇の練習は少し疲れたけどみんな協力して演じた聖劇をたくさんの方が見てくれてうれしい気持ちでいっぱいです。私はもう来年度から中学生になりますが、中学生になっても教会へ通い続けたいと思います。

パジェントの思い出

小学六年 立本夢丸

教会で台本をもらって最初は全く覚えられなかったけれど徐々に覚えて気づけば演技をするのが楽しくなっていました。学校などの学芸会などではセリフがひとつしかないモブキャラしかやったことがなかったのですが自分のセリフがそこそこ多いのがなんだか嬉しかったです。僕は博士役で名前がカスパールでした。練習していく内に分かったのは最後のシーンがすごく難しいということです。横二人と息を合わせなければいけないのですが、捧げ物を置く際両腕の袖があったので、自分の思うよりも難易度が高かったです。

練習の最中に蜘蛛がいてみんなで見守っていたら見失ってしまい、自分たちの番が来た時に床を見て、先ほどの蜘蛛がいないか探しました。蜘蛛の事が気になってその日はあまり練習に集中できませんでしたがなんとか本番に向けて、出来る限りの準備と心構えをしました。本番はいつもと違って人がたくさんいてとても緊張しました。とても楽しかったです。

パジェントの思い出

小学二年 立本花道

本番ひとがたくさんいてきんちゅうしました。れんしゅうはむずかしかったです。お芝居をしてヨセフは大工としました。声はさいしょはちいさかったけどできるようになっ

た。台本にある自分のセリフすぐにおぼえられました。羊飼をやれてよかったとおもいました。ナレーターが喋りおわったらあるいていくときのタイミングはむずかしかったです。がんばったところはこえをおおきくしたことです。あるいていってたつてまつてるあいだなにをすればいいのかわからなかったです。えんぎできてよかったです。ありがとうございます。



聖アンデレ教会将来計画

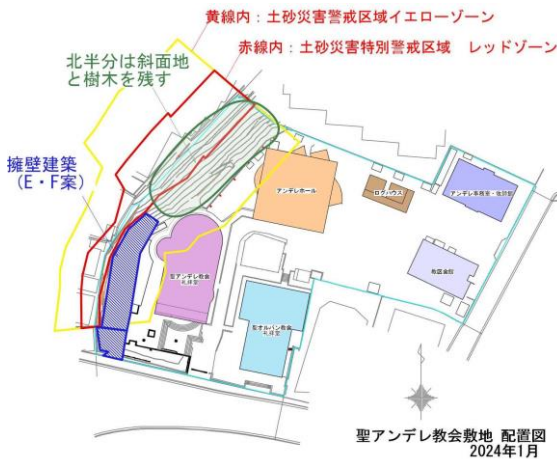
「西側がけ地安全対策の方向性について」

前回の「さかえ」では、がけ地の詳細調査結果によってわかったことをご報告しました。今回はその結果をふまえ、がけ地対策の方向性について検討したことをお知らせします。崖地調査を通して、西側がけ地は南半分と北半分で勾配が異なるため、北半分のやや緩い勾配の崖はレッドゾーンではありますが、危険は少なく必ずしも対策が必要ないこと、南半分の急ながけ地は対策が必要であることがわかりました。斜面をワイヤーで抑える「ノンフリューム工法」はレッドゾーン解除には有効ですが、南半分の急ながけ地は土が流れることを防ぐ木柵があり、撤去しなれば施工できません。その結果、隣地

に土が流れる問題や、植栽の定期管理の際、ワイヤーが障害になる問題も残ります。そこで、このがけの課題はレッドゾーン解除というよりむしろ、急ながけを安全にかつ人が入れる場所として整備するほうが、目標として大切ではないか、という考えに変わってきました。

そのような目標に向けて、田口建築設計事務所でいくつかの案をつくりました。まず、ショウホールは解体撤去し、斜面地に重機を入れて勾配を緩くし、遊歩道やデッキを配置して人が散歩できる公園のような場所にする案です。次に、教会活動に必要な事務室や牧師執務室、会議室などが礼拝堂のそばにあるとよいとして、急ながけ地に擁壁を兼ねた半地下建築をつくる案（E案、F案）をつくりました。

昨年ご説明したA B C D案のうち、BとDは、がけ全面に擁壁兼車路をつくる案でしたがコストが高すぎて断念しました。A案（建築工事は最小限にしてがけのみ整備する案）、C案（アンデレホールを建て替え牧師館と合築する案）はまだ有効です。



二〇二四年度は、これらA C E F案をフラットに並べて、進むべき方向について考える年にしていきたいと思っています。信徒説明会やワークショップを開催しますので、皆様ぜひご参加いただき、一緒に考えていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

前庭ならびに西側崖地プロジェクトチーム ポウリー・田口知子



聖アンデレ教会 建築イメージ模型

礼拝での奉仕の役割

「聖歌の奉唱と聖歌隊の働き」

執事スザンナ 中村真希

聖公会は「歌が大好き」な教派と言われます。教会によっては主日の聖餐式で五曲もの聖歌をフルで歌い、なおかつお祈りのところもチャントが用いられたりするからです。

早朝の聖餐式のように、聖歌もチャントもなくしたり少なくなったりすることは可能です。つまり礼拝の進行そのものには本質的でないにもかかわらず、私たちはこれだけ音楽を用いているのは、私たちの祈り、賛美と感

謝が深まり、礼拝がより豊かになるために他なりません。逆に言えば祈りのためにということを意識することなしに礼拝の中で音楽を用いることはできません。

音楽はハーモニー、つまり「調和」が大切です。人と人との調和、神と人との調和。気持ちよく上手に歌ったり、苦手だから歌わなかったり、「自分」を基準にするのではなく、いかに人の声に耳を傾け、人と合わせて一つの賛美を作り出すことができるか。音楽は祈りを美しく一つにし、神さまにお献げする手助けをしてくれるのです。

皆さんもご存じのように、聖歌はその礼拝が献げられる期節、読まれる聖書に合わせて選ばれています。私たちの信仰、伝えようとしているメッセージを、歌詞の意味はもちろん、旋律やリズムによる表現としても味わい、思いを合わせることはとても大切です。是非一つ一つの聖歌チャントを丁寧に、心を込めてお献げしていただきたいと思ひます。

聖歌隊はそれらの聖歌、チャントの奉唱をリードし、礼拝を下から支える役割を担う大切な奉仕の一つです。礼拝全体をリードするのはその礼拝の司式者の務めですが、聖歌隊は司式者の意図をしつかりとくみ取りながら、オルガニスト、会衆と、その間に立つて礼拝全体の調和をサポートします。そのために、聖歌やチャントを「歌う」だけでなく、礼拝の意味や、みことば、歌われる聖歌についての勉強や練習も行っています。聖歌隊が土台から支えてくれることで、私たちはより安心して心からの声を上げ、賛美を献げることができます。

いづれにしても大切なのは私たちが思いを一つに、感謝と賛美を神様

にお献げしているということ。その日そのとき一回限りの一つ一つの礼拝は、参列者の誰一人の声が欠けても成立しない特別なものです。喜びをもって私たちの祈りをお献げしていきましょう。

洗礼・堅信

幼児洗礼を終えて

キレネのシモン 新井祥一郎

神様と皆様の助けにより、昨年十二月二四日の降誕日前日に息子の祥人（よしと）と麒麟（あきと）の洗礼式を行わせて頂きました。当日並びに事前の準備にお手伝い頂きました先生方と皆様に改めてお礼を申し上げます。二〇一九年十二月に生まれた祥人は、年明けから始まったコロナウィルスの流行と二〇二二年九月の麒麟の誕生により、ようやく洗礼を受けることができました。二〇一八年十一月に妻の依子と結婚式を挙げた教会で、子どもたちの洗礼式を行えたことをとても嬉しく思います。兄弟で同時に洗礼式を行えることになったため、洗礼名は兄の祥人をペテロ、弟の麒麟をアンデレとさせて頂きました。洗礼式に出席された方はご覧頂いたのではないかと思います。夫夫婦ともども男子二人の圧倒的なパワーに驚かされる毎日です。思えば六年前に教会で結婚式を挙げさせて頂いてから、あつという間に今日になったようにも思えます。これからも私達家族が歩んできた道のりが、また更に積み重なっていくことを願います。これからも神様に見守られながら、家族ともに健やかに過ごしたいと思ひます。また日頃、私達のためにお祈り頂いている皆様にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

聖アンデレ教会の足跡第七回

二〇一〇年

歴史資料整理係

アジア学院でワークキャンプを行う
二〇一〇年八月七日〜九日二泊三日、アジア学院でワークキャンプを行いました。学院のセミナーハウスに宿泊し、野菜の収穫、草取り、畜舎の清掃等農作業の体験をしました。夕食後には、荒川現校長より熱意あるお話を聞き、学生たちとも交わりました。これらの国々と連帯する日本の将来に大きな役割を担っています。有意義な体験でした。

アジア学院は那須塩原にあり、アジア・アフリカ等途上国からの若者を農業指導者に養成する目的で、一九七三年に設立。二〇二三年に五十年を迎えました。日本聖公会をはじめ各キリスト教会や地域が支援しています。



「ミニクリスマスマーケット」

エレミヤ大岡祐一朗

昨年のクリスマススイブに宣教共育企画・青年会の合同企画として、教会前庭スペースにて、ささやかなミニクリスマスマーケットを開催いたしました。

「教会のクリスマスを東京タワー周辺を散策する皆様に感じてもらいたい」という思いから、聖堂前の前庭にて、ホットワインやコーヒー、軽食を提供し、皆様から献品頂いたクリスマスグッズを販売しました。また、なんとバグパイプの演奏まで。昨年のクリスマススイブは日曜日だったこともあり、多くの方が足を止めてアンデレ教会に足を運んでくださいました。マーケットを楽しんだ後は、自然と聖堂に向かう方もいて、中には当日夜に行われたレッスン&キャロルズに参列いただいた方もいました。

教会の外へ視点を向けての活動という事と事前準備も不十分な中、難しい部分もありましたが、寒い中、小学生〜大人まで多くの年齢層の皆様が協力し合って、臨機応変に対応し、クリスマスマーケットが開催できたことに意味を感じます。一人でも多くの方に楽しんでもらえるような、そして教会を感じてもらえるような宣教活動をこれからも心掛けていきたいと思っています。

お忙しい中、開催にあたってご協力いただきました皆様には本当に感謝申し上げます。

コイノニア

イベント報告

●教区行事として、二〇一〇年七月には、国際ボランティアセンター主催で、パレスチナの現状「平和に生きたいだけなのに」を学び、十一月一九日に中東聖公会、ダワーニ大主教が来日、二五日まで交流。十一月二十日には教区会聖餐式で説教をされた。

新教会委員のご紹介

「社会のために働く教会」

トマス牧野兼三

私は学生時代に京都で洗礼を受け、

聖アンデレ教会
ホームページ聖アンデレ教会
フェイスブック

インターネットやYouTubeなど
ご不明な点がございましたらご遠慮なく
教会までお問合せください

地域の貧困、人権、路上生活者、カルト問題など様々な社会問題に向き合いました。その後上京し、時々教区の青年会などに出没はしていましたが、聖婚式以降約一八年間は教会とは全く離れた生活を送っていました。平日は毎日終電近くまで働き、休日にも家族サービスや少年野球に駆り出され、とにかく多忙でした。教会に行くことはもちろん、社会のために働くという意識すら忘れかけていました。

教会に戻るようになったのは、二〇一一年東日本大震災でのボランティアがきっかけです。大災害が起きた時、最初に動いたのはキリスト教会でした。「被災地のために何かできないか？」と考える人にとって教会の活動に加わるのが一番の近道だったのです。信仰の有無に関わらず、日本中から大勢の若者たちが東北の教会に集いました。そこでは私がそれから継続的にお手伝いしている、カパテイランの働きにも出会うことができました。

聖公会には三つの役割があると言われていました。「礼拝」「伝道」そして「奉仕」です。私はアコライトとして伝統的な礼拝様式を守り伝えるのと同時に、社会のために働く教会のメンバーでありたいと願っています。